

科目名	教育評価論特講	担当者	フジタ シュイチ 藤田 主一	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>教育は、子どもたちがもっているさまざまな可能性を伸ばすために、教師がはたらきかける援助活動です。教育測定が個人の学力や技能などを客観的、数量的にとらえることをめざしてきたのに対し、教育評価は教育を受ける子どもたちを全人的な立場でとらえるため、その対象はきわめて広範囲にわたります。この科目は、教育評価の意義と歴史、現状を学ぶとともに、よりよい教育実践の役割と子どもたちの成長発達に貢献しようとすることを目的としています。</p>		
到達目標	<p>教育評価にはさまざまな観点が含まれています。教育評価の意義を学ぶことはもちろんですが、教育実践のあり方、児童生徒の理解と方法、具体的な技法などについての知識を増やし、今日の学校教育に携わる者として児童生徒を正しく理解し導いていく基本的能力を身に付けることが目標です。</p>		
学修方法	<p>基本教材1および2を熟読してください。どちらの教材も、教育評価の領域において先駆的な研究と実践活動を主導され、わが国の教育評価の発展に多大な貢献をされた2名の先生の高著です。学校教育の中で教育測定と教育評価がどのように扱われてきたのか、これからどのような方向に進むべきなのか、具体的な方法論にはどのようなものがあるのかなどについて、その歴史と現状をたどりながら未来への提言にもなっています。院生の皆さんは、内容を理解しながら自分の言葉で要点をまとめ、最後に深い洞察を加えるようにしてください。</p>		
スケジュール	<p>基本教材1のレポート課題(1)(2)の提出は春学期(前期)の終了まで、基本教材2のレポート課題(1)(2)の提出は秋学期(後期)の終了までに提出してください。内容等が十分でない場合にはコメントの中で指摘しますので、期日までに加筆修正したレポートを再提出してください。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	100%	レポート課題(1)(2)のそれぞれを100点満点で点数化し、その平均をもって最終評価にします。もちろん、提出されなかったレポート課題は0点になります。
	平常評価	%	
履修者への要望	<p>参考図書は、書店または図書館で購入・閲覧できるものを取り上げました。基本教材は読みやすい文章になっていますが、さらに読書したい場合や、専門用語などが不明の場合には参考図書を併読することをお勧めします。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 梶田 叡一 教材名： 『教育評価』（第2版補訂2版）（有斐閣，2010年）ISBN:978-4-64-111277-3 2,200円+税</p> <p>本書は、教育評価について学ぼうとする人のためにまとめられた基本的専門書であり、以下の各章から構成されている。序章「教育評価の意義」、第1章「教育評価の歩みと今日的課題」、第2章「教育活動と目標・評価」、第3章「形成的な評価」、第4章「到達基準に準拠した測定・評価」、第5章「教育目標の分類体系（タキソノミー）とその教育的活用」、第6章「学校による評価の実際」、第7章「評価の心理的影響」、第8章「授業・教師・学校の評価」、終章「わが国における教育評価の展開」。</p>
参考図書	<p>田中耕治（編）『よくわかる教育評価』（第2版）（ミネルヴァ書房，2010年）ISBN:978-4-62-305914-0 2,600円+税 梶田 叡一・加藤明（監修）『改訂 実践教育評価事典』（文溪堂，2010年）ISBN:978-4-89-423701-8 2,400円+税 梶田 叡一『教育評価入門—学びと育ちの確かめのために—』（協同出版，2007年）ISBN:978-4-31-900655-7 2,000円+税 森敏昭・秋田喜代美（編集）『教育評価—重要用語 300 の基礎知識』（明治図書，2000年） ISBN:978-4-18-212317-7 2,660円+税 東洋・梅本堯夫・芝祐順・梶田 叡一（編集）『現代教育評価事典』（金子書房，1988年） ISBN:978-4-76-082256-0 20,000円+税</p>
履修上のポイント	<p>教育評価という仕事は、期待される教育目標に対して子どもたちがいかにそれを達成したかを知るとともに、よりよい教育実践の役割と子どもたちの成長発達に貢献しようとするものです。教育測定は、個人の学力や技能などを客観的、数量的にとらえることをめざしてきました。これに対して、教育評価は教育を受ける人間全体を問題にします。この科目を履修しようとする人は、教育評価の歴史を学び、そしてぜひ全人的な視点で子どもたちを見つめてください。</p>
レポート課題 1	<p>基本教材 1 の序章～第 4 章までを熟読し、各章の内容を 800～1,000 字程度に要約しなさい。最後に、全体をとおしての考察を 800～1,000 字程度にまとめなさい。 留意点：要約というのは、本文の一部分を抜粋してつなげることではありません。各章に何が書いてあるのかを読み取り、自分が理解した内容を文章にすることです。この点に十分気をつけてください。</p>
レポート課題 2	<p>基本教材 1 の第 5 章～終章までを熟読し、各章の内容を 800～1,000 字程度に要約しなさい。最後に、全体をとおしての考察を 800～1,000 字程度にまとめなさい。 留意点：要約というのは、本文の一部分を抜粋してつなげることではありません。各章に何が書いてあるのかを読み取り、自分が理解した内容を文章にすることです。この点に十分気をつけてください。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 橋本重治（原著者）（財）応用教育研究所（改訂版編集） 教材名： 『教育評価法概説』（2003年改訂版）（図書文化，2003年） ISBN:978-4-81-003406-6 2,300円+税 【紀伊國屋ウェブストアは在庫僅少です】</p> <p>本書は、教育評価法についての理論的・実践的内容を含み、広範な領域にわたり論述している名著であり、以下の各章から構成されている。第1章「教育評価の意義と歴史」、第2章「教育評価の領域と手順」、第3章「絶対評価と相対評価」、第4章「資料収集のための技法（1）—テスト法—」、第5章「資料収集のための技法（2）—教師自作テストと標準検査—」、第6章「資料収集のための技法（3）—観察法・評定法その他—」、第7章「学習評価の手順」、第8章「学習評価の実際」、第9章「知能・適性の評価」、第10章「性格・行動・道徳の評価」、第11章「教育計画の評価・学校経営の評価」、第12章「補助簿・通信簿・指導要録・内申書」、付章「教育統計」。</p>
参考図書	<p>辰野千壽（著）『学習評価基本ハンドブック—指導と評価の一体化を目指して—』（三訂版）（図書文化，2010年）ISBN:978-4-81-000569-1 1,800円+税 上里一郎（監修）『心理アセスメントハンドブック』（第2版）（西村書店，2001年） ISBN:978-4-89-013294-2 14,000円+税 大村政男・花沢成一・佐藤誠（著）『新訂・心理検査の理論と実際』（駿河台出版社，1985年） ISBN:978-4-41-100286-0 2,190円+税 森敏昭・秋田喜代美（編集）『教育評価—重要用語 300 の基礎知識』（明治図書，2000年） ISBN:978-4-18-212317-7 2,660円+税 東洋・梅本堯夫・芝祐順・梶田 叡一（編集）『現代教育評価事典』（金子書房，1988年） ISBN:978-4-76-082256-0 20,000円+税</p>
履修上のポイント	<p>最適な評価の技法・用具を選択することは、教育評価のための資料収集にとって大切な仕事です。一般的には、①教師作成テスト、②標準テスト、③観察法、④面接法、⑤作品や表現の利用、⑥事例研究などがあげられます。それらのうちどれを採用するかは、評価の目的や対象との関係で決まります。常に適切な技法・用具を選択することに心がけなければなりません。この科目を履修しようとする人は、幅広い視点から子どもたちを見つめる方法を学んでください。</p>
レポート課題 1	<p>基本教材 2 の第 4 章～第 8 章までを熟読し、各章の内容を 800～1,000 字程度に要約しなさい。最後に、全体をとおしての考察を 800～1,000 字程度にまとめなさい。 留意点：要約というのは、本文の一部分を抜粋してつなげることではありません。各章に何が書いてあるのかを読み取り、自分が理解した内容を文章にすることです。この点に十分気をつけてください。</p>
レポート課題 2	<p>基本教材 2 のうち、第 9 章、第 10 章に含まれている知能・適性の評価、性格・行動・道徳の評価を要約し、またその中の知能検査、適性検査、性格検査の具体例をそれぞれ数種類取り上げて説明しなさい。 留意点：基本教材は必要最低限の内容を説明していますが、各種検査を紹介する部分は基本教材だけでは不十分と思いますので、参考図書を利用して調べ豊かな文章にしてください。</p>